

第40回 弘前市民クリスマス
第25回記念
メサイア演奏会



1994.12.18(日) 3:30. 弘前市民会館大ホール



“記念の年、われらの教会に祝福を”

佐々木 正 利

『神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。』（ヨハネの手紙 第一、4章9節）

「大草原の小さな家」——ローラを中心とした、父さんと母さんがおりなす数々のエピソード。このテレビドラマが、世界各地で好んで見られているのは何故でしょう。どうして見ている私たちの心を、あんなにも打つのでしょうか。それは、この家族が、真の愛に溢れ、積極的に、そして人の心を温める生き方をしているからに他なりません。彼らが、そろって教会に行くシーンが、番組の中に必ずといってよいほど出てまいります。天地のみならず、われわれ一人ひとりをお造りくださった神様。個人の人生や家族のあり方に、真の意味を与えてくださる神様。聖にして愛に溢れた神様と、教会で会うことが、あの家族にとって生きる意味を感じる大切な時なのだと思います。愛されている自分を、生きる喜びを本当に知ることができる、キリストのからだである教会に、多くの方々に足を運んでいただけたならと、心より願います。

でも……………。

いろんな事情があって教会を訪ねることのできない人も、この世の中には大勢おられます。かく言う私も、かつてはどうしても教会を訪ねることができない一人でした。〈食わず嫌い〉という言葉がありますが、よく知りもしないでいて、教会という響きの、堅苦しい、息のつまりそうなイメージに、畏れをなしていたものでした。不完全のかたまりみたいな自分なのに、人に教えられ、導かれることなしには何も満足にできない自分なのに、他人に説教されることを忌み嫌い、まるで洗脳されるかのような先入観すら抱いて、教会を拒んでいたのです。本当は、そんなこと全くなく、正義と愛の屋形なのに。

でも……………。

私たちが、いま普通に親しんでいる音楽。クラシックであれポピュラーであれ、そのルーツを辿れば、その発展の土台はキリスト教の音楽に行きつきます。私が自分の意思をもって最初買ったレコードはチャイコフスキーの悲愴交響曲でしたが、ここから始まったクラシックへの憧れは、ある時期を境にして、古いものへ、古いものへとさかのぼり始めました。パレストリーナ、ジョスカン・デ・プレ、ギョーム・ド・マショー、レオニヌス、そしてついにグレゴリオ聖歌までさかのぼったのです。この時に至って、私は何の違和感もなく教会の門をくぐり抜けてしまいました。教会であれば何処でも同じと思い、なるべくカッコのいいデカイ教会にしようと、ローマ・カトリックの教会音楽家パレストリーナのことを教えてもらおうと私が最初に訪れたのは、何とギリシャ正教の教会でしたのは、全くもってドジな話です。しかし、しかし!!曲がりなりにも、私はこうして教会に足を踏み入れたのです。あんなにも毛嫌いしていた教会なのに。

そして……………。

あれから20数年。いま私はクリスチャンとして、神様が造られた人間が、神様を賛美するために作った音楽を、喜びをもって奏でています。大袈裟な言い方かもしれませんが、大先人バッハやヘンデルと同じ気持ちをもって、音楽にいそしんでいます。音楽は、神様が人間の心を豊かにし、また癒してくださるために贈ってくださった大切な宝。この宝物を通じて、たくさんの人々と出会い、そして喜怒哀楽を共有してまいりました。本日ステージを共にする弘前の仲間たちや盛岡の仲間たち、そして東京、仙台の仲間たち。限られた時間と能力でもって、一生懸命に音楽を作り上げました。老若男女、みんなそれぞれの想いをもってステージに上ります。流れでる音楽はまことに稚拙かもしれませんが、客席の皆様と一体となって音楽のすばらしさを分かち合いたいと思います。キリストの愛の音楽を。

すると……………。

弘前市民クリスマス40周年、メサイア連続演奏会25周年、まことにおめでとうございます。長年にわたって、ご尽力くださった関係各位の皆様へ心よりの敬意を表します。この活動を通して、教会の敷居が高かった何人もの人々が、救われていったことと思います。いや、それよりむしろ、すでにこの会場そのものがキリストのからだ、愛満ち溢れる教会ではないでしょうか。神様の祝福溢れる教会ではないでしょうか。私にはそう思えて仕方がありません。今宵、私たちの輪の中心に、きっと神様が臨んでくれていることでしょう。

たしかに……………ハレルヤ。

佐々木 正 利 指 揮

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。声楽を畑中良輔、須賀靖元、小林道夫の各氏に、発声法を森明彦氏に、音楽学を服部幸三、角倉一朗の各氏に、作曲を松本民之助氏に、宗教音楽を岳藤豪希氏に師事。ドイツ・リート、オラトリオ、カンタータ等の宗教音楽を専門とし、特にJ. S. バッハの声楽曲に深い造詣を示す。芸大4年の時クリスマス・オラトリオで楽壇デビュー。以後芸大メサイア公演、定期演奏会をはじめ大学、一般合唱団、オーケストラと多数共演。特に1978年芸大マタイ受難曲公演にて福音史家として高く評価され、以後そのスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、ローレ・フィッシャー教授に師事。同年南ドイツにて数回歌曲リサイタルを開き好評を博す。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、ヘルムート・クレッチマル教授に師事。この間同大学定期演奏会でドヴォルザーク・レクイエムのテノールソロを務めたのをはじめ、ドイツ、オーストリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー各地で一流オーケストラ、合唱団と多数共演。1980年ウィーン楽友協会ホールに於るマタイ受難曲においては『若き日のペーター・シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。1982年ハンブルク、ブリュッセルの口短調ミサでは特に高い評価を得た。帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、シュトゥットガルト・バッハ合奏団、ドイツ・バッハ・ゾリステン、N響、読響、都響、日フィル、新日フィル等、内外の著名オーケストラの演奏会に多数出演。K. マズア、H. シュタイン、H. プロムシュテット、H. ヴィンシャーマン、H. リリング、小沢征爾、若杉弘等世界的指揮者と数々共演。1985年ザルツブルグ音楽祭に招かれ、R. バードー指揮のベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団とバッハ・マニフィカート、モーツァルト戴冠ミサを共演、好評を博す。1990年にはH. J. ロッチュ指揮ライプツィヒ聖トマス教会聖歌隊、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のマタイ受難曲日本公演にて、急遽福音史家、テノール・ソロの代役を務め、絶賛を博した。在独中オペラでは、コシ・ファン・トゥッテのフェランド、フィデリオのヤッキーノ、スカルラッティ・グリセルダのコッラード役で出演。現在までリサイタル16回、NHK-FMリサイタル5回等歌曲の分野でも活躍。1970年芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、以後13年に亘り小林道夫氏のもと、指導者として多くの後進を育てる。1987、88にはH. リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにて、テノール・マスタークラスの講師を務めた。又コダーイ・サマースクール、古楽サマースクール等種々の講習会において指導講師を務めている。合唱指揮者としても盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団を率いての二度に亘るドイツ演奏旅行において『シュッツ、バッハの世界的担い手』と新聞批評で絶賛されるなど着々と実績を挙げている。現在、岩手大学教育学部音楽科教授。元北海道教育大学非常勤講師。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡楽友協会副会長。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。岡山バッハ・カンタータ協会指揮者。水戸バッハ・コレギウム音楽顧問。



弘前市民会館にて 1993年

菅 英三子 ソプラノ



京都市立芸術大学・ウィーン国立音楽大学を首席で卒業、稲畑・中原賞、オーストリア共和国芸術褒賞の各賞を受賞。その後、日本およびヨーロッパ各地でソリストとして活躍、これまでに、ザルツブルグ市音楽奨励賞、宮城県芸術選奨新人賞、フランシスコ・ビニャス国際声楽コンクール（スペイン）コロラトゥーラ・ソプラノ賞、バート・ヘルスフェルト夏季音楽祭オルフェウス賞、出光音楽賞、青山音楽賞の各賞を受賞。また、アルフレッド・クラウス国際声楽コンクール（スペイン）第二位、国際新進オペラ歌手コンクール（オーストラリア）第一位、藤沢オペラコンクール（日本）第一位及び福永陽一郎賞受賞。佐々木成子、木下武久、小室彰子、長谷川美津子、R. ハンスマン、M. テムメ、R. オルトナー、W. モーアの各氏に師事。またマスタークラスにてE. ヴェルバ、R. テバルディ、P. シュライヤー、I. ビョーナーの各氏より指導を受ける。

これまで、ヨーロッパにおいては、フランクフルト放送交響楽団定期演奏会に出演した他、マドリッド（スペインにてテレビ放送、CD発売）、ウィーン（ラジオ放送）でのコンサート等にも出演、またブラハ国立歌劇場をはじめ、ブレーマーハーフェン市立劇場（ドイツ）、ブルノ国立歌劇場（チェコ）に客演、バートヘルスフェルト夏季音楽祭、ガルス夏季音楽祭の野外オペラ公演に出演している。日本においては、東京・仙台・京都にてリサイタルを開催、藤沢市民オペラ公演の他、NHK・FM＜土曜リサイタル＞や＜題名のない音楽会＞に出演、また各地において数多くのコンサートに出演している。1994年には、ヨーロッパでは、ブラハ国立歌劇場を中心にオペラ公演に出演した他、ウィーンにてリサイタルを行ない、日本では、関西二期会オペラ公演に客演（夜の女王）、カップッチェリとの共演、新日鉄コンサート（リサイタル）、東京都交響楽団定期演奏会、京都国際フェスティバル（リサイタル）他多くのコンサートに出演。

現在、ブラハ国立歌劇場契約歌手

佐々木 まり子 アルト

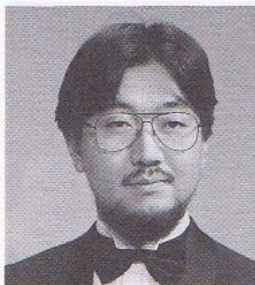


東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程独唱科修了。毎日音楽コンクール西日本一位。NHK新人演奏会出演。伊藤亘行、森明彦の両氏に師事。

学部在学中より小林道夫氏のもとにおける東京芸術大学バッハ・カンタータ・クラブ演奏会において数多くのカンタータ、オラトリオのアルトソロを受け持つ。又、大学合唱団及び一般合唱団と多数共演。モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「ロ短調ミサ」などに出演する。1980年にデトモルト北西ドイツ音楽大学に留学し、ヘルムート・クレッチマルに師事。その間北ドイツにおいてバッハを中心とした宗教音楽演奏会に数多く出演。ヒルデスハイムにおける「アルトソロカンタータ」、ミュンスターにおけるC・Ph・E・バッハの「マニフィカート」は新聞紙上で絶賛される。帰国後もH. ヴィンシャーマンとの共演をはじめ、「マタイ」、「ヨハネ」両受難曲「クリスマスオラトリオ」、メンデルスゾーンの「エリア」、ベートーベン「第九」などオラトリオのソリストとして東京を中心に、札幌・仙台・横浜・名古屋の各地で演奏活動を行っている。

1985年には西ドイツのオルデンブルク・アーヘンにてヘンデルの「プロケス受難曲」、バッハの「復活祭オラトリオ」のアルトソロを歌い、1986年にも「メサイア」のソリストとして渡独した。1993年9月にA. ギーベル女史とのメンデルスゾーン「パウロ」に出演。10月には、H. ヴィンシャーマン指揮によるドイツ・バッハソリスト連との「マタイ受難曲」のアルトソリストとして、盛岡・仙台・岡山・東京に帯同した。

佐藤 淳一 テノール



東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱科修了。吉岡巖、酒井弘、藤村晃一の諸氏に師事。1990～91年、ミュンヘンへ留学。アダルベルト・クラウス氏の許で宗教音楽を中心に研鑽を積む。また、ハンス・マルティン・シュナイト氏に特別レッスンを受ける。

現在までに4回リサイタル開催。その他多くのジョイントコンサートに出演。またヘンデルの「メサイア」をはじめ、バッハのカンタータ、ミサ、受難曲、モーツァルトのミサ、レクイエム、シュペルトやハイドンのミサなど、宗教曲のソリストとして活動。オペラでは、仙台オペラ協会主催の「オペラのけいこ」「売られた花嫁」「カルメン」「蝶々夫人」や、「ラ・ボエム」「フィガロの結婚」「女の城」などに出演。在独中には、ハイドンの「天地創造」やバッハのカンタータ等の演奏会に出演し絶賛される。

合唱との関わりも深く、大学や一般の合唱団のヴォイストレーナーとしての他に自らも、プロ男声合唱団クロスロードシンガーズのコンサートマスターとして全国各地で公演を行い、また数々の合唱曲のレコーディングも行っている。

現在、尚絅学院短期大学助教授。クロスロードシンガーズコンサートマスター。

熊木 晟二 バス



弘前大学卒業。磯谷 威、原田茂生氏に師事。1979年よりドイツ・ミュンヘン国立音楽大学・大学院にて、R・グルムバッハ、故E・ヴェルバ教授に師事し、オペラ、オラトリオ、リートを学ぶ。滞独中、ミサ曲、リーダー・アーベント等数多くの演奏会に出演するほか、ミュンヘンに於て第1回リサイタルを開催し絶賛を博す。81年帰国後もリサイタル（4回）をはじめ、金子登、奥田耕天、福永陽一郎、荒谷俊治、アントニン・キューネル、井上道義、佐々木正利氏等の指揮のもとで、ヘンデルの「メサイア」、モーツァルトの「レクイエム」、ベートーヴェンの「第九」をはじめ「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロール等に出演。力強い響きのある声、格調の高い音楽性、豊かな表現力をもった演奏は定評があり、青森県はもとより、東北、四国、東京での演奏会にも招かれ、全国的な活動をしている。中学時代、坂本雄二氏（元、青森市甲田中学校長）に音楽の手ほどきを受け、NHK合唱コンクールで指揮、その後青森高校音楽部を指揮し、現在は「メサイア」、「第九」の合唱指導も行っている。1975年青森県芸術文化奨励賞受賞。現在、東奥義塾で教鞭をとるかたわら、弘前大学医療短大講師。青森県合唱連盟理事、弘前オペラ協会専務理事。弘前オペラ会長、東奥義塾男声合唱団「グリーン・クラブ」指揮者。日本声楽発声学会会員。

訳書に「声楽家のための正しい英語表現」（マドレーヌ・マーシャル）—音楽之友社。「メサイアとヘンデルの生涯」（ピーター・ジェイコビ）—日本基督教団出版局。



ヴァイオリンⅠ コンサートマスター 花 崎 淳 生

東京芸術大学を経て、1984年、同大学大学院修士課程修了。在学中、芸大パッサンタータクラブに所属。

84年、中国政府の招待により訪中。北京人民大会堂をはじめ、北京、西安、上海の各地で演奏。

85年、東京都ニューヨーク市姉妹都市提携25周年記念カーネギー・ホール公演に出演。

86年から87年にかけて、ドイツ、カールスルーエに留学。

故井上武雄、日高 毅、J. W. ヤーンの各氏に師事。

「エルデーディ弦楽四重奏団」「古典四重奏団」「ゾリステン'85」メンバー。



ヴァイオリンⅡ 海 保 あけみ

松本市出身。

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

ヴァイオリンを片岡世界、正岡絃子、山岡耕祐、日高 毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫、日高 毅、小林道夫の各氏に師事。

現在フリーの演奏家として室内楽、オーケストラ等の演奏を中心に活動している。



ポジティブ・オルガン 劔 持 清 之

国立音楽大学卒業。パンセ・ア・ラ・ミュージック社の「コンコーネ50番」、ピアノ伴奏テープ録音。ビデオ・ディスク「チェンバロのすべて」、チェンバロ・ソロ録音。

国立音楽大学助教授佐藤峰子氏の演奏会および同氏主催オペラ研究会専属ピアニストを務める一方、バロックアンサンブル「Musika Anrede」チェンバロ奏者として活動。91年仙台において海老澤敏氏によるモーツァルト没後200年記念講演でモーツァルトのピアノ協奏曲を演奏、好評を得る。93年佐々木正利リサイタルにおいてホルガン、ピアノを担当。

チェンバロ、通奏低音を西川清子、オルガンを小林みゆき、ピアノを佐々木靖子、小島満里、故ロマン・オルトナー、ホセ・フランシスコアロンソの各氏に師事。

現在、盛岡大学短期大学部助教授。盛岡楽友協会、グルッペ・ベッヒライン、各会員。盛岡パッサンタータ・フェライン・オルガニスト。

弘前市民クリスマス・メサイア

メサイア	市民クリスマス	年 月 日	指 揮	会 場
第 1 回	第 15 回	70. 12. 23	金子 登	市民会館大ホール
第 2 回	第 16 回	71. 12. 12	金子 登	
第 3 回	第 17 回	72. 12. 23	金子 登	
第 4 回	第 18 回	73. 12. 15	金子 登	
第 5 回	第 19 回	74. 12. 21	金子 登	
第 6 回	第 20 回	75. 12. 14	金子 登	
第 7 回	第 21 回	76. 12. 11	金子 登	
第 8 回	第 23 回	77. 12. 11	金子 登	
第 9 回	第 24 回	78. 12. 23	中内 幸雄	
第 10 回	第 25 回	79. 12. 22	金子 登	
第 11 回	第 26 回	80. 12. 19	金子 登	
第 12 回	第 27 回	81. 12. 12	金子 登	
第 13 回	第 28 回	82. 12. 11	金子 登	
第 14 回	第 29 回	83. 12. 7	金子 登	
第 15 回	第 30 回	84. 12. 23	金子 登	
第 16 回	第 31 回	85. 12. 21	金子 登	東奥義塾礼拝堂 東奥義塾礼拝堂 市民会館大ホール 東奥義塾礼拝堂 市民会館大ホール 市民会館大ホール 市民会館大ホール
第 17 回	第 32 回	86. 12. 20	金子 登	
第 18 回	第 33 回	87. 12. 19	中内 幸雄	
第 19 回	第 34 回	88. 12. 18	佐々木正利	
第 20 回	第 35 回	89. 12. 17	佐々木正利	
第 21 回	第 36 回	90. 12. 22	佐々木正利	
第 22 回	第 37 回	91. 12. 21	佐々木正利	
第 23 回	第 38 回	92. 12. 13	佐々木正利	
第 24 回	第 39 回	92. 12. 18	佐々木正利	
第 25 回	第 40 回	92. 12. 18	佐々木正利	



ヴィオラ 李 善 銘 Shanming Li

神戸市に生まれる。東京芸術大学器楽科（ヴィオラ専攻）へ進み、1971年に卒業、以降、同大学管弦楽研究部講師として現在に至る。東京バッハ・カンタータ・アンサンブル創立時よりのメンバーとして、20年来小林道夫氏のもとで研鑽を積みかたわら、クロイツ弦楽四重奏団を組織し、室内楽方面で活躍している。また、1982年、東京アカデミー室内合奏団及び東京クロイツ室内合奏団の首席ビオラ奏者を務め1983～85年に行われたヘルムート・リリンク主宰のシュトゥットガルト・バッハ・アカデミーにおいても首席ビオラ・ダモアレ及びバロック・ビオラなど古楽器の分野でも活躍し、1989年に結成された日本初のオリジナル楽器によるオーケストラ、東京バッハ・モーツァルト・オーケストラ（有田正広指揮）及びバッハ・コレギウム・ジャパン（鈴木雅明主宰）にも加わっている。出身地神戸に於ては、神戸バッハ・カンタータ・アンサンブルを始め、神戸市民交響楽団の指揮や子供の弦楽アンサンブルの指導をするなど、後進の育成にあたっている。バイオリンを吉原周吉、吉武滋野、ビオラを三輪長雄、白柳昇二、中塚良昭の各氏に師事。



チェロ おお き あい いち 大 木 愛 一

青森県立弘前高校、東京芸術大学器楽科卒業。
芸大在学中、同大学バッハカンタータクラブにおいて、小林道夫氏の指導のもと、通奏低音とアンサンブルの研鑽をつむ。
1988～89、ハンガリー政府の給費に基き、文部省在外研究員としてブダペスト、リスト音楽院に学び、ペレーニ・ミクローシュの音楽と指導に接する。
チェロを阿保健、松下修也、堀江泰氏の各氏に師事。現在大阪教育大学助教授。



コントラバス 蓮 池 仁

東京芸術大学卒業。コントラバスを永島義男氏に師事。在学中、芸大バッハカンタータクラブに所属。小林道夫の指導のもと、その薫陶を受ける。
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コントラバス奏者。



トランペット 森 岡 正 典

1960年、山形市に生まれる。1975年、山形県立北高等学校音楽科入学。
トランペットを八木良弘、北村源三の各氏に師事。1978年、山形大学教育学部特別教科（音楽）教員養成課程入学。トランペットを故金石幸夫氏に師事。
ロータリー海外派遣でアメリカに於いて、金管アンサンブルのメンバーとして参加し、研鑽を積む。1980年、山形交響楽団に学生契約として入団。1982年、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現仙台フィル）に入団。
1990年、アフィニス文化財団海外研修員としてアメリカに留学。フィリップ・スミス氏（ニューヨークフィル首席）に師事。留学中スミス氏のリサイタルにて共演。
1991年、ワイオミング州グランド・ティートン音楽祭の奨学金を得て、スーザン・スルーター氏（セントルイス響首席）に師事。
これまでにハイドン、フンメル、ヴィヴァルディ等の「トランペット協奏曲」を同団と協演。
現在、オーケストラの他にも現代音楽、サロンコンサート、金管アンサンブル、TV、ラジオ出演等で幅広い演奏活動を行っている。



オーケストラ

ヴァイオリン I	花崎淳生 (客員)	コントラバス	蓮池仁 (客員)
	酒井恵史		毛内裕三
	福井禎子		石崎耕也
	斎藤智子		
	鵜田晴美	ポジティブ・オルガン	剣持清之 (客員)
ヴァイオリン II	海保あけみ (客員)	オーボエ 1	西沢勝則
	対馬文敏	2	斎藤龍矢
	兜森多香子		
	村木昂	トランペット 1	森岡正典 (客員)
	有賀正剛	2	福井智明
ヴィオラ	李善銘 (客員)	ファゴット	板垣光信
	塩崎章悦		
チェロ	大木愛一 (客員)	ティンパニー	小山内真理子
	窪田とく		

演奏会記録

(独唱) ソプラノ	アルト	テノール	バス
長坂幸子	黒木佐久子	内田陽一郎	熊木 晟二
長坂幸子	山崎祥子	高塚昭男	熊木 晟二
長坂幸子	近藤恭子	高塚昭男	熊木 晟二
長坂幸子	近藤恭子	高塚昭男	熊木 晟二
今千佳子	山崎祥子	中村豊太郎	熊木 晟二
虎谷千佳子	小泉弥生	中村 健	熊木 晟二
菅原あつ子	中屋早紀子	高 丈二	熊木 晟二
虎谷千佳子	戸田敏子	中村 健	熊木 晟二
中村邦子	戸田敏子	中村 健	熊木 晟二
中村邦子	戸田敏子	中村 健	高折 続
中村邦子	戸田敏子	中村 健	高折 続
虎谷千佳子	毛利純子	中村 健	熊木 晟二
虎谷千佳子	毛利純子	中村 健	熊木 晟二
菅原あつ子	毛利 準	中村 健	熊木 晟二
虎谷千佳子	佐々木まり子	佐々木正利	熊木 晟二
虎谷千佳子	佐々木まり子	佐々木正利	熊木 晟二
石井友子	佐々木まり子	佐々木正利	熊木 晟二
立花寿子	佐々木まり子	佐々木正利	熊木 晟二
虎谷千佳子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	辻 秀幸	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二
菅英三子	佐々木まり子	佐藤 淳一	熊木 晟二

※弘前市民クリスマスは、第1回目は1956年に実施、プログラムでは1回分ずれていたのが第23回目の際訂正したものである。

合唱団

東奥義塾グリークラブ
聖愛高校音楽部
O・B・O・G有志
東京教育大学有志

弘前学院大学有志
弘前宗教音楽合唱団
弘前大学混声合唱団有志

弘前オペラ有志
弘前大学学生有志
一般市民有志

弘前大学教育学部音楽科有志
弘前女子厚生学院有志

ソプラノ

羽場陽子 (16)
田中成子 (12)
佐藤登志 (11)
平川ゆかり (10)
須藤誠子 (10)
川越都子 (5)
須藤ゆかり (5)
千葉仁子 (5)
斉藤由美子 (4)
高橋留美子 (4)
伊東千恵子 (3)
川村七瀬子 (3)
葛西幸子 (3)
菊池穂子 (3)
小杉美穂子 (3)
谷口佳織子 (3)
真島芳恵子 (3)
光井恵子 (3)
赤坂千賀子 (2)
浅野崇子 (2)
石川素子 (2)
斎藤聡子 (2)
長谷川智子 (2)
福井英里子 (2)
松田年子 (2)
山井恵枝子 (1)
石工千枝子 (1)
工藤清香子 (1)
今越しおり (1)
名上純由子 (1)
三谷央子 (1)
湊内央子 (1)
山パレルシンシア子 (1)
山本麻子 (1)

アルト

船水佳子 (16)
三上佳代子 (15)
大瀬順子 (11)
古川祥子 (9)
藤田恭子 (4)
木村里子 (3)
成田さと子 (3)
中村康美 (3)
三高智花 (3)
須藤喜歌 (3)
荒川央枝 (2)
秋元美枝子 (1)
井上よし子 (1)
佐々木裕典子 (1)
佐々木典美子 (1)
前藤原靖代 (1)

テノール

今井孝 (21)
柿崎哲弘 (11)
黒沼修 (7)

バス

奈良岡幸則 (18)
千葉聖浩 (18)
田沢隆 (12)



三原正敏 (5)
相馬進 (5)
佐々木裕一 (4)
兼平智広 (3)
葛西紘史 (3)
清藤龍治 (3)
桜田真佐 (3)
竹浪博人 (3)
藤田圭宣 (3)
工藤潤逸 (2)
相馬剛介 (2)
田口篤輝 (2)
乘田正昭 (2)
西谷田康 (2)
藤馬大樹 (1)
对桑智彦 (1)
葛菊一尚 (1)
佐外藤崎也 (1)
森山忠太 (1)
山本山康真 (1)

須村郡大工関蔦福船石木田西藤池今太清竹
郷上場井藤藤谷士水岡村中谷田上村田水浪
祐雄正康智寛一寛孝
一 (11)
二 (4)
範 (4)
敬 (3)
巳 (3)
美 (3)
臣 (3)
聡 (3)
文 (3)
文 (3)
怜 (2)
仁 (2)
涼 (2)
規 (2)
也 (2)
志 (1)
太 (1)
明 (1)
要 (1)
平 (1)

()は出演回数



ご挨拶

メサイア演奏会後援会 佐藤 眞 会長

クリスマスを迎えるアドベントのさなか、この季節恒例の弘前市民クリスマス「メサイア演奏会」も回を重ねること実に25回。今年は第25回記念演奏会開催という大きな節目の年になりました。これも偏に、この演奏会の趣旨と意義を御理解下さり物心両面にわたって暖かな御支援をお寄せ下さいました後援会の皆様のお力添えの賜物であると深く感謝申し上げます。

今や、全国的にも知られる様になったこの演奏会の黎明期の諸事情に関しましては、当時御苦勞なされました中内幸雄・山田文雄・中村卓三のお三方からそれぞれ思い出が寄せられておりますので、じっくりお目通しの程をお願い申し上げます。

また、25年もの長きにわたって幾多の困難を克服してこの演奏会をここまで育てられた歴代のメサイア委員会の皆様、及びこれまでこの演奏会に御参加されましたすべてのオーケストラ・合唱団の方々、それと後援会役員その他関係各位の皆様から敬意と賛辞を捧げたいと存じます。

意義ある今年の記念演奏会には指揮者の佐々木正利先生の御力添えによりまして、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの皆様80名がお祝いの賛助演奏の為にかけつけ、この演奏会に花を添えて下さいました。誠に有難く、只ただ感謝で御座居ます。

どうぞ世界の平和と人類すべての幸福を心から願いつつ、平和の君イエス・キリスト降誕の予言から、受難・復活に至るまでを描いたこの壮大なオラトリオをお聴きになって頂きたいと存じます。今後も引き続き当後援会の趣旨と意義に御賛同下さいまして、この演奏会が更に充実したものになります様、暖かな御支援と新規加入者の御紹介を心からお願い申し上げます。

＜後援会役員＞

会長 佐藤 眞 (日本聖公会弘前昇天教会)
理事 村谷 秀則 (東奥義塾々々長)
〃 阿保 邦弘 (弘前学院聖愛高校々々長)
庶務 福士 加代子 (弘前カトリック学生センター)
吉田 博 (日本キリスト教団)
菊池 邦子 (弘前カトリック教会)
坪田 庸子 (弘前学院大学)

会計 石沢 弘子 (弘前カトリック教会)
〃 成田 洋子 (弘前カトリック教会)
監事 岡井 寅三郎 (日本キリスト教団)
〃 柏谷 昭子 (弘前カトリック教会)

なお、この会への連絡は事務局担当者 福士加代子
(弘前市桔梗野1丁目2-2 ☎35-5674)
弘前カトリック学生センター宛にお願いします。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

ソプラノ

阿部 靖子
一井 陽子
伊藤 美奈子
岩根 節子
菊池 節子
久保木 万喜子
熊谷 充代子
斎藤 純子
佐藤 智恵子
佐藤 千砂
佐藤 美由樹
沢田 東子
丹野 亜希子
丹野 貞子
戸田 妃呂子
中村 澄江

沼田 秀子
福田 温子
藤崎 美苗子
三浦 敦子
柳田 松子
矢幅 嘉子
吉田 奏子
吉田 真由美
門脇 たたえ子
菅村 雅子
檜山 祐子
高橋 玲子
新沼 理恵子
高橋 菜穂子

アルト

井上 末由子
小川 曉美
菊池 綾子
桐原 絹子
佐々木 文子
須川 加奈子
鈴木 織恵子
高橋 孝子
藤澤 怜子
牧香久子
丹野 まり
佐々木 美智子
加藤 緒理絵
佐藤 公津
照井 志
千田 加代子

千中 葉知恵子
早野 和子
福川 英美子
茂田 祐子
吉木 容子
金田 まき子
鈴子 千鶴
鳴海 秀美
真希子

テノール

金田 誠
斎藤 健
佐々木 幹雄
菅原 伸作
寺沢 行
中野 寛司

高橋 真哉
河原木 孝
吉村 浩
古川 哲
田代 大亮

ベース

小原 一穂
下田 潤
芳賀 郁夫
村上山 敦司
横藤 泉久
佐藤 和久

戸東 百樹
阿部 勝
大石 学
田沢 平隆

(Morioka Bach — Kantaten — Verein)

1997年 J. S. バッハのカンタータを研究・演奏する目的で発足。以来、一貫してバッハ作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究・演奏を行っている。その演奏が、1985年のドイツ演奏旅行において「我々のバッハ、シュッツをたとい我々が演奏できなくなったとしても、この日本の合唱団が立派にその後継者として実践を果たしてくれるに違いない。」と現地新聞批評にて絶賛され、また1991年渡独の際にも、再び「作品の語感、音、そして精神の完熟」という最大級の賛辞を受けるに至るまでには、常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあったのである。佐々木は、超一流のエヴァンゲリストと評価される。その発音、語感、様式感を、もう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きる」と「音楽が生きる」とは歌の世界では同義語である。」というカンタータ・フェラインの音楽信条が、演奏上の身上となるに至ったのである。これまでの主たる活動としては、先の2回のドイツ演奏旅行での「メサイア」「クリスマス・オラトリオ」等の演奏を始め、「マタイ」「ヨハネ」両受難曲、「ロ短調ミサ曲」等の大曲や数多くのカンタータ、またガブリエーリ、シュッツ、ブックステフデ、メンデルスゾーン等の宗教曲等多岐に渡って演奏し、そのいずれも批評家、愛好家より好評を博しており、1993年のヴィンシャーマンとの「マタイ受難曲」の秀演を受けて、ドイツ・バッハザリステンの「マタイ受難曲」欧州演奏旅行では、ドイツでの受け入れ体勢が整い次第、共演合唱団としての出演を要請されている。また'95年11月には、岩城宏之氏の指揮による、アンサンブル金沢オーケストラとの共演で、ハイドンの「天地創造」の演奏を予定している。

